

児童の安全な通学のための教育教材

# 安全に通学しよう

～自分で身を守る、みんなを守る～

## 【活用にあたっての4つのポイント】

このDVDは、通学時の交通安全、生活安全（防犯）、災害安全（防災）の各領域に渡って、児童自らが習得した知識に基づいて的確に判断し、迅速に安全行動をとることができるようになることを目的に作成された教育教材です。

### 1. 発達段階に応じて活用できる

児童の発達の段階に応じた内容構成となっており、危険予測や回避のトレーニングとしても活用することができます。

### 2. みんなで考えながら学習できる

適宜、映像を一時停止させて、考えたり話し合ったりしながら活用することができます。

自分たちで考えた安全な横断の仕方を、発表して話し合うことができる場面も用意されています。

### 3. 自由に組み合わせて活用できる

領域毎の指導や領域を組み合わせて指導することも可能です。

学校や地域の実態に応じた内容を選んで指導することができます。

### 4. 短時間での指導にも活用できる

それぞれのチャプターは10数分程度で、短時間（朝の会や帰りの会）での活用も可能です。

## 【交通安全】指導のポイント

- 事故にあわないための大切な技能として、「止まる、見る、確かめる」の励行を重点的に指導してください。
- 児童の交通行動には一般的に、死角（遮蔽物等で見えない箇所）に対する感受性が低い、同時に複数の対象に注意が向けられない、衝動的に行動してしまうなどの特徴があります。「止まる、見る、確かめる」ことにより、これらの特徴を補うという観点で指導を進めてください。
- 低学年向けは、道路を歩く時の決まり事と行動の手順を中心に、映像内容を構成しています。安全であるための基本的な技能の習得をねらいとしています。
- 中学年向けは、道路を歩く基本に加え、危険予測の学習を教材に含めています。どのような危険が予測されるかを考える場面を様々に用意しています。
- 高学年向けは、自転車運転時の危険予測を中心に教材を構成しています。被害者にならないための知識と技能を習得しますが、加害者にならないための指導も加えてください。
- 全体的に、自分で考えて行動することの大切さを基本に内容を構成しています。映像を単に示すだけでなく、「どんな危険が考えられるか」「安全でいるためにどうすればよいか」と問いかけ、児童の考えを引き出すように指導してください。
- 道路や交差点に飛び出してしまう場面や、曲がってくる車と交錯する場面など、児童が巻き込まれやすい交通事故の典型パターンを具体的に映像にしています。適宜映像を停止させて、児童からの発言をもとに話し合いながら映像を進めてください。
- 危険な道路環境や危険な状況性を学んだ後、自分たちの通学路にも同様の道路環境や状況性が観察されないか、そのような場所でヒヤッとした経験はないかと、児童に問いかけてください。自分たちの身近な問題として理解することが重要となります。校区の地図で確認しながら学習するなど、教材の活用方法を工夫してください。
- 安全マップづくりなどの交通安全教育や、自転車安全教室などの指導場面と併せて本教材を活用する、あるいはこれらの指導場面の事前事後で本教材を活用するなど、より教育効果を高めるための工夫を考えてください。
- 本教材では、横断時に手を挙げるように指導していますが、この指導の趣旨は、自分の存在を目立たせることです。ただし、手を挙げたからといって、すべての車が気づいて止まってくれるわけではありません。このことを児童に説明し、渡る前には必ず「止まる、見る、確かめる」を励行し、横断中も周囲の車の存在や車の動きを確かめるように指導してください。

### 【生活安全（防犯）】指導のポイント

- 主な内容は、犯罪被害の発生防止のために危険な場所や状況を理解し事前に避けること、及び危険な状況に出会った場合には適切な対処法をとることとしています。
- 対処法についても実写を多用していますが、それは、恐怖心を植え付けたり、結果の怖さを理解させたりすることが目的ではありません。危険になる一歩手前の状況性、及び適切な具体的対処法を理解させることを目的としています。
- 危険な状況に出会った場合に、身近な人たちに助けを求めることに加え、そのことを保護者や教員などに早く知らせることの必要性を取り上げています。
- 防犯や交通安全のために見守り活動をしている人たちから、子どもたち自身が身を守ることに必要に加え、見守る人たちの子どもの安全に対する思いなどを紹介しています。

### 【災害安全（防災）】指導のポイント

- 通学途中で、児童自身が自ら判断し、行動しなければならない自然災害を想定しています。（地震、津波や短時間で急変する気象災害）
- 映像は、あくまでも一般的な状況や対応を示しており、通学路の状況、地域の環境に応じ、適切な判断の下、行動できるよう指導して下さい。
- 災害は、予測を超えて発生する場合があります。地域のハザードマップを活用する際には、その事も含め指導することが重要です。

### 留意点

- 映像の中には、交通事故や犯罪被害の状況性、災害直後の様子が含まれています。児童の精神的負担を考慮し、活用の仕方を判断してください。